

II章 夏休みの家庭での過ごし方

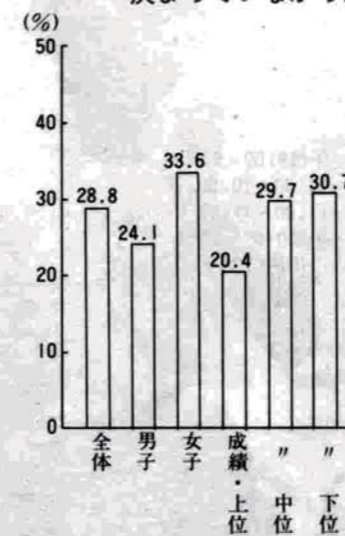
この章では、中学生の夏休みの家庭での生活実態を、学校があるふだんの日の生活と比較しながら、明らかにするのがねらいである。中学生の家庭での姿を、以下の5つの側面から調査した。まず(1)起床・就寝時間から、大まかな生活リズムを、次に(2)朝食に代表される基本的な生活習慣を、そして、家庭内における行動として、(3)手伝いの実態、テレビを見るなどの具体的な(4)家での過ごし方、その行動の反映として、家族や友人との(5)コミュニケーションがどう変化するかなどを探っている。

(1) 起床・就寝時間

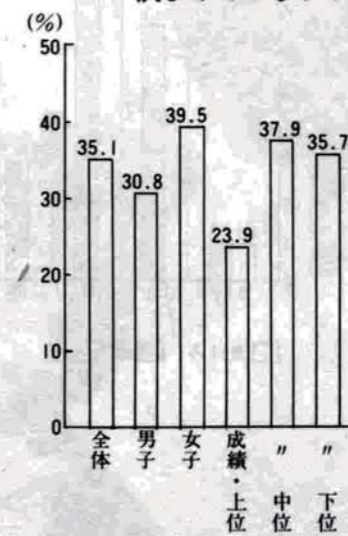
中学生の夏休みの生活リズムはふだんの日と比べて、どう変化するのだろうか。毎日の起床・就寝時間から探ってみた。まず、起床・就寝時間が決まっていたかどうかをたずね、決まっていなかったと答えたものを男女別と成績別の比較もまじえ示した。(図II-1、2)

毎朝の起床時間が決まっていたのは全体の71.2%、就寝時間は少し下がって64.9%である。両方とも、決まっていた者は、それだけ規則正しい生活リズムを持っていたと考えられる。それでは、決まっていなかったのはどんな生徒に多いのだろうか。図II-1、2から、男

〔図II-1〕 起床時間が決まっていなかった割合



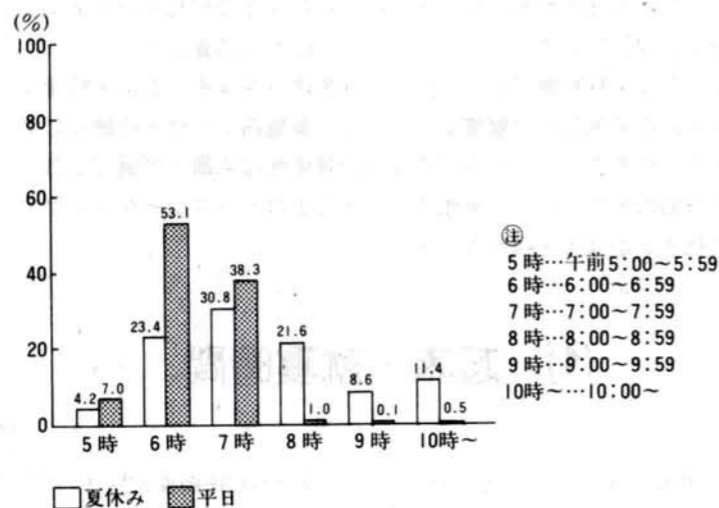
〔図II-2〕 就寝時間が決まっていなかった割合



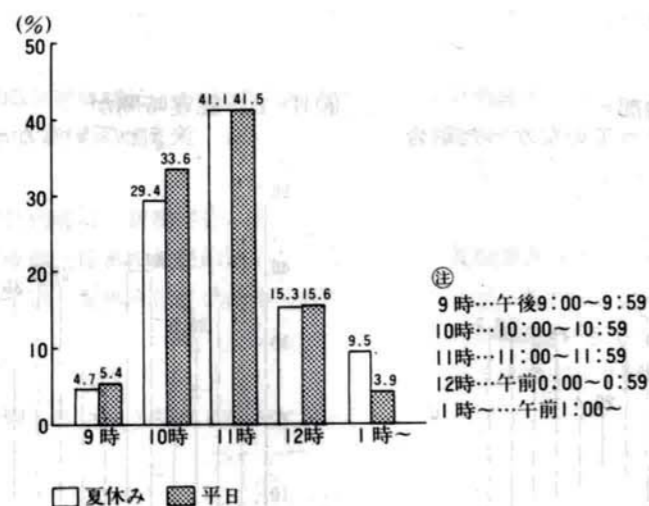
子よりも女子、成績中・下位者にその傾向が強いことがわかる。

次に、決まっていたと答えたものは具体的に何時頃起床・就寝していたのか、夏休みと

〔図II-3〕 起床時間



〔図II-4〕 就寝時間



平日を比較して示した。(図II-3、4)

平日では、6時台までに60.1%が起床し、7時台までには、ほとんどの者が起床している。これに対し、夏休みでは6時台までの起床は27.6%と少なく、7時台までの起床を合わせても58.4%にとどまっている。残りの41.6%は、ふだんの日よりも夏休みになると遅く起床していることになる。中でも20.0%の生徒は、毎日9時以降に起床していた。

就寝時間は、意外にも平日と夏休みで大差がなく、午後10時～11時台に70.5%が集中して就寝している。夏休みも平日と変わらず、割合早く就寝している。12時以降の夜ふかし型は、24.8%いるが、平日をわずかに5.3%上回った程度だった。

地域別にみると、6時台に起床する者の割合で、差が著しい。(図II-5)都市部では、6時台に起床する者はわずか8.3%であるのに対し、地方市街地では21.1%、地方郡部にいたっては、56.5%と半数以上を占めてい

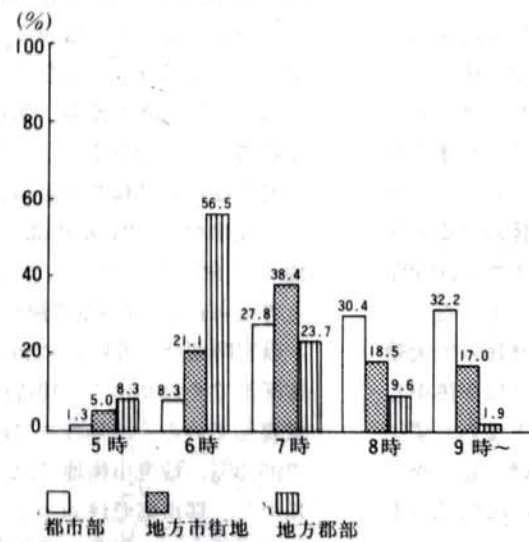
る。それぞれのピーク(最頻値)は、地方郡部が6時台、地方市街地が7時台に対して都市部では9時以降と、かなりのひらきがある。ここから早起きの地方、朝寝坊の都市部という特徴づけができる。

地方郡部の早起きの傾向は、ラジオ体操への参加率が72.0%(都市部-36.3%、地方市街地-24.9%)と高かったことに関係していると考えられる。(III章参照)

就寝時間は、6時台に56.5%が起床する地方郡部でやはり早く、10時台までに61.7%が就寝している。11時台までになると地方郡部で95.3%、地方市街地で84.3%が就寝するのに対し、都市部では59.0%にとどまっている。これは逆に12時以降に就寝する者が、都市部で31.0%もいることを示している。

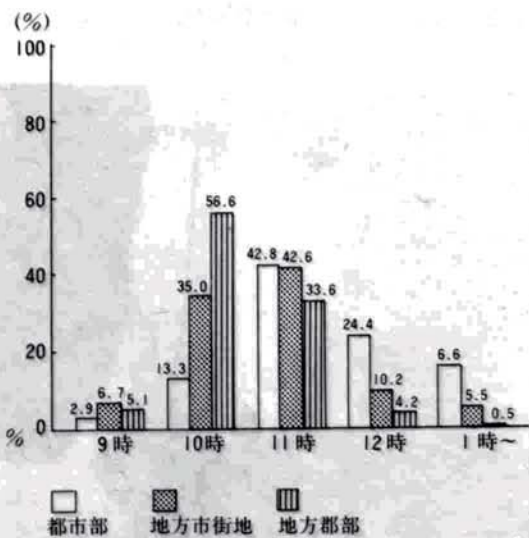
夜遅くまで起きていれば、当然朝起きるのも遅くなる。早寝早起きの地方に比べ、都市部はこの朝寝坊の夜ふかし型がかなり多い結果となった。

〔図II-5〕 地域別起床時間



④
 5時…午前5:00～5:59
 6時…6:00～6:59
 7時…7:00～7:59
 8時…8:00～8:59
 9時…9:00～

〔図II-6〕 地域別就寝時間



④
 9時…午後9:00～9:59
 10時…10:00～10:59
 11時…11:00～11:59
 12時…午前0:00～0:59
 1時…午前1:00～

(2) 朝食

最近、朝食を食べない子どもが多いと言われているが、中学生の夏休み期間中はどうか。ここでは、まず毎朝の朝食をどうしていたかを4つの選択肢の中から選んでもらった。

夏休みの朝食は、「毎朝、決まった時間に食べた」が21.4%、これに「時間は決まっていなかったが、毎朝食べた」を加えると全体の71.9%が毎朝、朝食をとっている。

「毎朝、決まった時間に食べた」と答えた者の比率を地域別、成績別にみると、都市部19.8%、地方市街地21.1%、地方郡部25.6%、成績上位者28.2%、中位者22.1%、下位者18.1%となっている。大都市よりも地方郡部で、また成績上位者で、毎朝、規則正しい朝食をとっている率が高い。

逆に、「まったく食べなかった」のは、全体で4.4%とごく少数派であるが、「食べない日

があった」を加えると28.1%が、不規則な朝食形態をとっている。

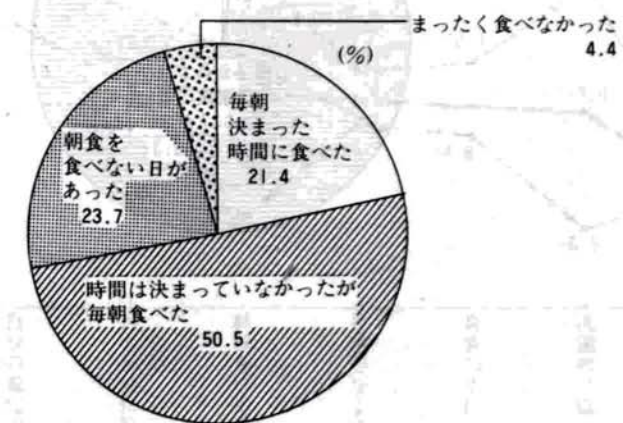
最近、パートタイマーなどで外に働きに出かける主婦が増えているが、母親の職業と朝食のとり方には、何か関係があるのだろうか。

調査データでは、意外にも専業主婦もフルタイムの勤め人でも、何ら差はないという結果が得られた。(図II-8)

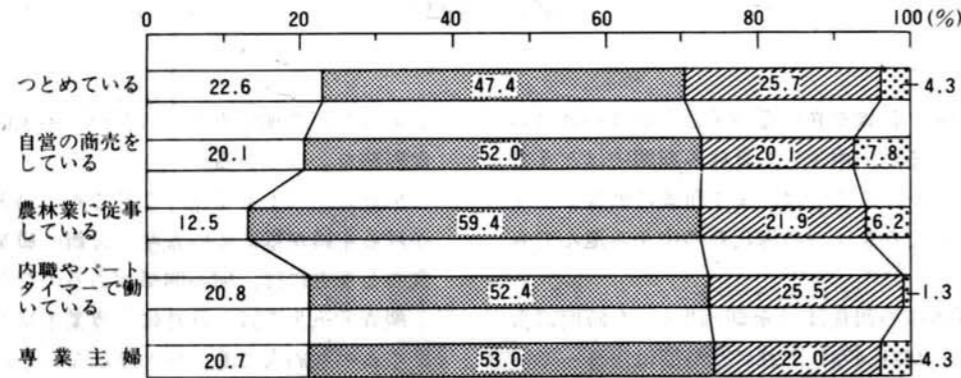
次に朝食を食べたと答えた者に、誰と食べたかをたずねてみた。(図II-9)

「家族全員ではないが、家族の者と食べるが多かった」と答えた者が48.3%いる。「家族全員揃って食べるが多かった」と答えた者は19.0%と、全体の2割に満たない。これに対し、「1人で食べるが多かった」と答えた者は30%を超え、いわゆる「孤食」の傾向がうかがわれる。

〔図II-7〕 朝食形態

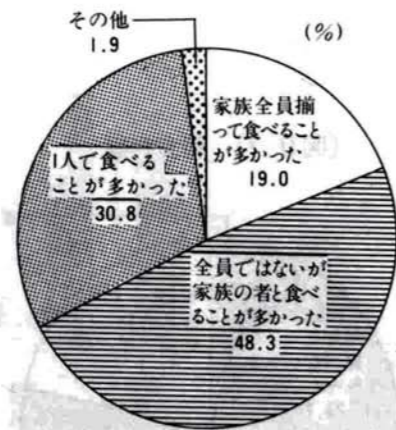


〔図II-8〕 母親の職業×朝食



毎朝決まった時間に食べた
 時間は決まっていなかったが毎朝食べた
 朝食を食べない日があった
 まったく食べなかった

〔図II-9〕 朝食を誰と食べたか



(3) 手伝い

中学生は夏休みにどのくらい手伝いをしていだろうか。男子と女子の比較も含めて、9つの項目について、毎日したかどうかをたずねてみた。(図II-10)

一番多いのは、「自分のふとんのあげおろしをする」で39.8%いる。続いて、「食事の後片付けをする」が33.9%、「自分の部屋のそうじをする」が29.4%となっている。

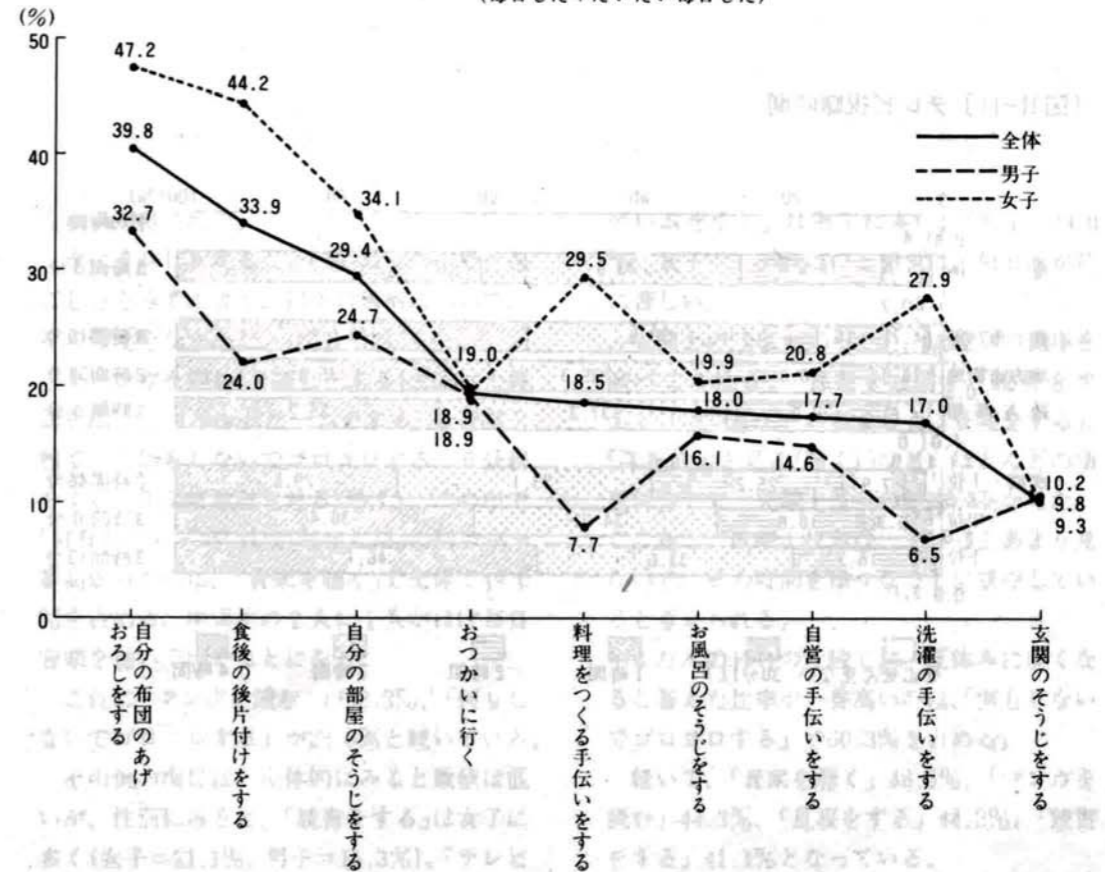
ほとんどの項目で、女子が男子を大幅に上回っており、特に「食事の後片付けをする」、「料理をつくる手伝いをする」、「洗濯の手伝いをする」では、2割以上の差がみられる。男子が女子を唯一上回っているのは、「玄関のそ

うじをする」だが、その差はわずか1%に満たない。家庭内での性別による役割分担が、夏休みでもはっきりと認められる結果となった。

ふだんの日との比較では、夏休みのほうが多く手伝いをしたと59.7%が答え、ふだんのほうが多く手伝いをしたと答えた8.2%の比率を大幅に上回った。しかし、手伝いといっても自分のふとんのあげおろしや自分の部屋のそうじなど自分の身の回りのことが上位を占め、全体的には、中学生はあまり手伝いをしていないといえる。

〔図II-10〕 手伝いの男女別頻度

(毎日した+だいたい毎日した)



(4) 家庭での過ごし方

夏休み中、中学生は家庭でどのように過ごしているのだろうか。8つの具体的な行動について、それぞれどのくらいしたかをたずねてみた。

まず、テレビっ子といわれる現代中学生のテレビ視聴時間は、夏休みにどうなるのかを調べた。(図II-11)

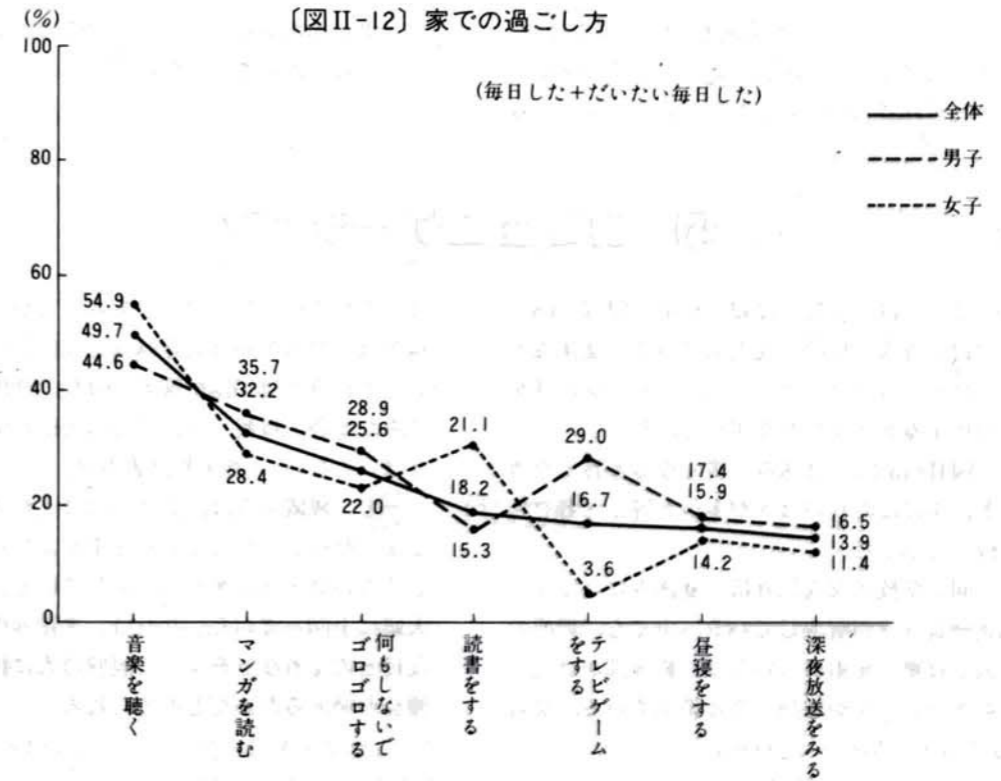
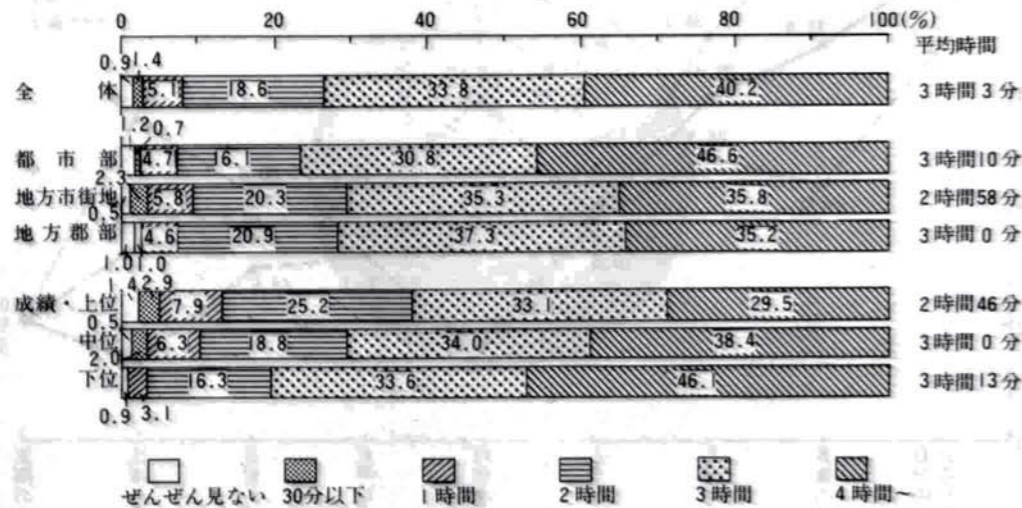
平均視聴時間(30分以下を0.5、1時間を1、2～4時間以上を4、ぜんぜん見ないを0と仮定して、平均時間を概算した)は、約3時間3分である。しかし、このデータは4時間以上を4時間として計算しているため正確ではない。4時間以上に4割も集中しているので、正確な平均時間はおそらく、3時間を大幅に上回るであろう。これは、第I章で述べた1日の平均学習時間(1時間20分)と比較すると、

実に1時間43分もテレビを見ているほうが長いことになる。

ふだんの日との比較では、夏休みのほうがテレビを多く見ると80.5%が答えている。これに対し、ふだんと同じくらい見ると答えた者は、14.9%、ふだんのほうが多く見ると答えた者は、わずか3.7%にとどまっている。やはり、休日になるとテレビ視聴時間は長くなる傾向が強い。

それでは、どのような生徒のテレビ視聴時間が長いのだろうか。4時間以上見ている者の地域別、成績別の比率をみたのが、図II-11である。都市部と地方では、10%以上も都市部が高い。また、成績が下がるにしたがって、4時間以上の割合が高くなっている。テレビ視聴時間は、都市部と成績下位者で長いとい

〔図II-11〕 テレビ視聴時間



う結果が得られた。

次にテレビを見ること以外の家の中での過ごし方をみてみよう。以下の事柄について、その頻度をたずねた。(図II-12)

1マンガを読む、2読書をする(マンガや雑誌を除く)、3テレビゲームをする、4音楽を聴く、5何もしないでゴロゴロする、6昼寝をする、7深夜放送を見る(聴く)。この中で「毎日した」、「だいたい毎日した」の割合が一番高かったのは、「音楽を聴く」で全体で49.6%を占める。中学生の2人に1人がほぼ毎日音楽を聴いていることになる。

これに「マンガを読む」が32.2%、「何もしないでゴロゴロする」が25.6%と続いている。

その他の項目は、全体的にみると数値は低いが、性別にみると、「読書をする」は女子に多く(女子=21.1%、男子=15.3%)、「テレビ

ゲームをする」は男子に多い。(男子=29.0%、女子=3.6%)この2項目は、男女差が特に著しい。

成績との関係を探るため、成績別の比率を調べてみたが、「音楽を聴く」、「読書をする」、「テレビゲームをする」、「昼寝をする」、「深夜放送を見る(聴く)」など、ほとんどの項目について、成績上位者の比率が高かった。ここから、成績上位者は、テレビをあまり見ないで、その時間を様々なことに費やしていると考えられる。

ふだんの日との比較では、夏休みに多く見ると答えた比率が一番高いのは、「何もしないでゴロゴロする」で60.3%を占める。

続いて、「音楽を聴く」48.6%、「マンガを読む」44.3%、「昼寝をする」44.2%、「読書をする」41.1%となっている。

この中で、「マンガを読む」と「音楽を聴く」は、ふだんの日と同じくらいと答えた比率が、それぞれ37.6%、30.7%を占め、夏休みのみ

ならず、日頃から、中学生の生活に深く密着しているものと考えられる。

(5) コミュニケーション

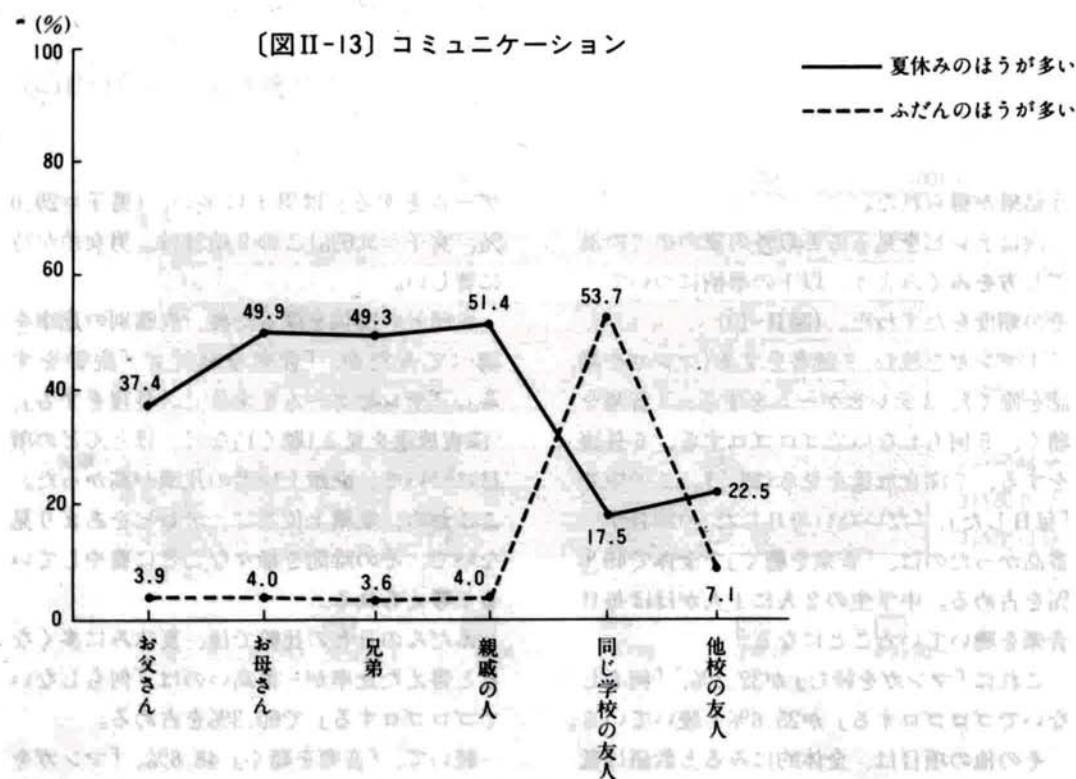
ここでは、父親、母親、兄弟、親戚、同じ学校の友人、他校の友人について、夏休みとふだんの日では、コミュニケーションの量が変化するかどうかをたずねてみた。

図II-13では、夏休みに多くなると答えた者と、ふだんの日のほうが多いと答えた者を比較して示した。

同じ学校の友人以外は、夏休みにコミュニケーションが増加している。中でも、親戚の人と母親、兄弟については、約5割がコミュニケーションが増加したと答えている。父親

は、これに次いで37.4%である。しかし、父親とはふだんと同じくらいコミュニケーションしているとして51.0%が答えており、全体としてみた場合、母親、兄弟に比べ会話が少ないとはいえない。(巻末集計表参照)

一方、親戚の人は、夏休みのほうが多くコミュニケーションしている比率がふだんと同じくらいコミュニケーションしている比率を大幅に上回っている。これは、夏休み中には父母との帰省などを通じて親戚の人に接する機会が増えるためだと考えられる。



友人関係をもてみると、同じ学校の友人とは、ふだんの日のほうが圧倒的に多くコミュニケーションしている。これに比べ、他校の友人とは、ふだんから接する機会が少ないと思われるが、それでも夏休みになるとコミュニケーションは増えている。これは、塾や夏期講習などへの参加に関連があるものと思われる。

それでは、地域的なコミュニケーションの特徴はあるだろうか。都市部では夏休みに他

校の友人をはじめ、同じ学校の友人とコミュニケーションが増える傾向が、地方に比べ強い。

一方、地方では兄弟や親戚の人とのコミュニケーションが増えている。

以上のことから、夏休み中は、都市部は友人中心に、地方は親戚を含む家族中心にコミュニケーションが増加する傾向があるといえる。

(6) まとめ

・夏休み中、毎日の起床時間が決まっていたのは約7割で、就寝時間は約6割5分である。

・起床時間は、平日に比べ夏休みになると遅くなる傾向があるが、就寝時間は平日と大差がない。

・夏休み中の朝食は、全体の7割が毎朝食べている。そのうちの約3割は1人で食べている。

・夏休み中の手伝いは、男子よりも女子のほうが多くしている。

・夏休みのテレビ平均視聴時間は3時間を超える。

・1日のテレビ視聴時間が4時間以上になる者は、都市部と成績下位者が多い。

・家の中では、2人に1人がほぼ毎日音楽を聴き、3人に1人がマンガを読んでいる。この傾向は平日からみられるが、夏休みになるとさらに強くなる。

・夏休み中のコミュニケーションは、親戚の人、母親、兄弟、父親の順で平日よりも増加している。